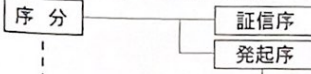


○観無量寿經の全体構成について

※【経緯】聖典269頁後6行目 「時に提婆達多、・・・「未生怨」と作るや。」 p292 23 ~ p293 27



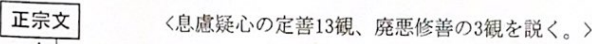
<阿難が自分が聞いたことにまちがいのないことを証明する。>
 <観經の説教がよって起こった理由を述べる。>

証信序
 六事成就 阿難 呼
 主 起 象

王宮 耆闍会

化前序 <観經以外の聖道一代の諸經はすべてみな方便の教えであることを示す。 (P) P87 U1

- 禁父縁 聖典89頁科文No. 3 - (P) P87 (2)
- 禁母縁 聖典90頁科文No. 4 - P88 (3)
- 厭苦縁 聖典91頁科文No. 5 - P89 (4)
- 欣淨縁 聖典92頁斜文No. 6 - P90 (5)
- 散善顯行縁 聖典93頁科文No. 7 - P91 (6)
- 定善示観縁 聖典94頁科文No. 8 - P92 (8)



<息慮疑心の定善13観、廃悪修善の3観を説く。>

王宮会

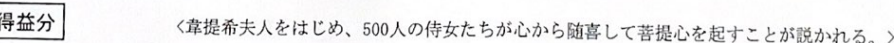
- 定善**
- 日想観 ... 夕日を観想する。
 - 水想観 ... 水を観想する。氷を観想する。
 - 地想観 ... 馬極楽浄土を観想する。
 - 宝樹観 ... 浄土の美しい樹木を観想する。
 - 宝池観 ... 極楽浄土の池を観想する。
 - 宝楼観 ... 浄土にある楼閣を観想する。
 - 華座観 ... 蓮華の台を観想する。
 - 像 観 ... 仏の姿を観想する。
 - 真身観 ... 無量寿仏の体を光明を観想する。
 - 観音観 ... 観世音菩薩を観想する。
 - 勢至観 ... 大勢至菩薩を観想する。
 - 普 観 ... 極楽浄土で蓮華の中に座して華が開くことを観想する。
 - 維 観 ... 阿弥陀如来のはたらきを観想する。

自分の心を静かに落ちつけ、雑念をはらい、浄土の有様や、仏・菩薩の姿を思い浮かべること。

- 散善**
- 上輩観
 - 上品上生
 - 上品中生
 - 上品下生
 - 中輩観
 - 中品上生
 - 中品中生
 - 中品下生
 - 下輩観
 - 下品上生
 - 下品中生
 - 下品下生

心が散乱したままで、悪を廃して善を修すること。

三福無分といって、まったく善根功德をもたない悪人とされる。



<韋提希夫人をはじめ、500人の侍女たちが心から随喜して菩提心を起すことが説かれる。>

<阿難尊者の本經の要意の訪ねに対して、釈尊はこれまでの定散二善の行をさしおいて、ただ南無阿弥陀仏の名号によるべきことが説かれ、この名号を信じ、されにこれをよく持つようにということが説かれる。>

耆闍会

<この王宮での説法を阿難が耆闍崛山に帰って再説したことが説かれる。>